

同和教育委員会

1 活動内容

- (1) 同和教育にかかわる各種大会、研究会等への参加
- (2) 同和教育推進上の問題点の把握と対応

2 主な活動

- (1) 5月11日(日)「部落解放同盟新潟県連合会第31回定期大会」に出席(新発田市)
- (2) 6月2日(月)・1月26日(月)県教委主催の「県同和教育推進協議会」に出席(新潟市)
- (3) 6月3日(火)「新潟県同和教育研究協議会第1回理事会・第23回総会」に出席(長岡市)
- (4) 8月7日(木)「第22回新潟県同和教育研究集会」に多数参加(五泉市)
- (5) 「人権政策確立キャラバン隊」に参加
 - ・8月22日(金)佐渡市
 - ・8月26日(火)長岡市、見附市、小千谷市、魚沼市
- (6) 10月3日(金)・4日(土)「部落解放第31回新潟県研究集会」に多数参加(佐渡市)
- (7) 11月19日(水)～23日(日)「いのち・愛・人権」展に多数参加(見附市)
- (8) 12月6日(土)・7日(日)「第66回全国人権・同和教育研究大会」に参加(香川県)
- (9) 7月1日(火)～10月9日(木)「人権・同和教育指導者養成講座」の8講座に参加
- (10) 5月～1月 県同教学校同和教育部会の実践レポート検討会に参加
- (11) 1月30日(金)「第31回北陸人権・同和教育講座」への参加(福井県)

3 同和教育の現状(主な大会参加を通して)

- (1) 第22回新潟県同和教育研究集会
 - 8月7日(木)五泉市さくらんど会館を主会場に約1,200名の参加者を得て開催された。
 - <テーマ>
「新潟県における部落差別の現実から深く学び、被差別の立場にある子どもや保護者、地域と深くかかわる同和教育を進めよう」

① 基調提案

県同教事務局長は、はじめに昨年度の全人教北陸人権講座での県内からの報告の一部である「差別は見ようとしなければ見えない。世の中には見ようとしなければ通り過ぎてしまうことがあるのだとはっきり分かった瞬間だった」という言葉から、「部落差別はもちろん、いじめも全ての差別は、差別を見ようとしなくていい人、差別を見過ごしている人を含めた差別をする側の問題である」という認識の必要性を再確認した。

その後、「かかわる同和教育」について現状と課題が示され、今後取り組むべき4つの具体的な取組の視点と取組を見直す6つの事項が提案された。最後に、昨年度の徳島県で行われた全国人権・同和教育研究大会の基調提案の一部を紹介し、まとめとした。

② 講演会

<演題>『「かしこく、やさしく、たのしく」生きるために』

<講師>解放社会学研究所長 江嶋修作さん
「人権教育、同和教育は差別されている人のために行うのではない。差別という醜い生き方をしないよう、自分のためにするものだ」と巧みな口調で、人権文化(人権感覚)の確立を参加者に呼びかける感動あふれる講演であった。

③ 分科会

「同和教育入門部会」「小学校部会」「中学校部会」「高等学校部会」「進路保障・社会同和教育部会」の5部会が開催された。

第2分科会の小学校実践交流会では、二人の学級担任から報告があった。一つ目は、体調が優れずに病死していく母親をもちながら、自らはアトピー性皮膚炎とたたかう子どもに寄り添う実践報告であった。二つ目は、トラブルを多く起こしがちな子どもと学校不信の母親とつながり、学級での仲間とのつながりをつくる実践報告であった。両報告とも「かかわる同和教育」の具現化の視点「目の前の子どもとかかわる」と「家庭訪問で生活実態やその背景をつかむ」に基づく、県下各小学

校の教員の参考となる報告であった。

(2) 部落解放第31回新潟県研究集会

10月3日(金)・4日(土)の2日間、初めての佐渡市開催となった。佐渡中央文化会館とトキのむら元気館を会場に、県小学校長会からも多数が参加した。

<テーマ>

「差別の現実には深く学び、部落差別をはじめさまざまな差別をなくそう！」

① 基調提案

本研究集会は、今年度31回を迎え、研究の成果は一步一步着実に前進している。しかし、直近の県民意識調査によると、65.4%の人が身元調査を容認している。これは生まれや戸籍によって人を判断しようとするものである。このような意識を根本から変えていくことが課題である。

○学校だけでなく職場や地域に根強くはびこっている部落差別をなくそう

○「かかわる同和教育・同和研修」を具体的に進めよう

② 記念講演

<演題> 歴史の中の被差別民

～佐渡で果たして来た役割～

<講師> 佐渡扉の会 会員 濱野 浩さん

佐渡は古来より国境の島と意識されてきており、極めて早い時期から都の影響を受けていた。佐渡金銀山の開発と被差別民との関係や佐渡の被差別民の役割を学ぶことができた。

③ 特別報告

佐渡扉の会事務局次長から、佐渡で部落解放及び人権問題に取り組む市民グループ「佐渡扉の会」の、被差別部落への積極的なかわりについての活動報告があった。

④ 分科会

「同和教育の推進」「同和行政の推進」「狭山事件と共同闘争」の3分科会が開催された。

第1分科会では、上越市の小学校、佐渡市の中学校と高等学校からの実践報告があった。参加者からは、生徒の成長を明確にする必要がある等の課題が指摘された。

⑤ フィールドワーク

現地研修を通して、長い間放置されていた同和対策事業の取組の現状から、部落差別が現実の問題であることを再認識することができた。

(3) 「いのち・愛・人権」見附展

今年は、11月19日(水)から23日(日)まで見附市まちの駅・市民交流センター「ネーブルみつけ」をメイン会場に行われた。

見附文化ホールで行われたオープニングセレモニーでは、実行委員長の挨拶に続き、ご来賓の祝辞をいただき、次に、神奈川大学大学院法学部教授山崎公士さんによる「人権をめぐる情勢と課題」の講演会が開かれた。世界における人権問題の実態から、今なお7400万人ほどの子どもたちが劣悪な環境に置かれ、教育を受ける権利すら与えられないことを訴えられていた。また、学校の「いじめ」も人権の侵害であることを強調されていた。

(4) 第66回全国人権・同和教育研究大会

今年度は、12月6日(土)、7日(日)に香川県高松市において開催された。

<テーマ>

「差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう」

初日午前は、高松市総合体育館をメイン会場に、開会行事・基調提案・特別報告で大会の意義が確認された。1日目午後と2日目は、「学校教育部会」は3分科会15分散会、「社会教育部会」は2分科会6分散会、「特別部会」では特別分科会と展示と交流が行われた。新潟県からは、「人権確立をめざす教育の創造」の分科会で五泉市立川東小学校渡邊裕希子教諭が、「進路・学習保障」の分科会で県立高田北城高等学校新井久美子教諭が報告を行った。

4 終わりに

同和教育は地道な取組を継続していくことが肝要である。校長自身が研究集会等に積極的に参加し、同和教育の一層の充実に向けてリーダーシップを発揮していかなければならない。